

# 2023年3月期 決算・中期経営計画 説明会

第99期：(2022年4月1日～2023年3月31日)

2023年5月10日

思いをこめて、あしたをつくる  
Passion in Creating Tomorrow

太平洋五業株式会社

(説明なし)

## 目次

1. 2022年度実績
2. 2023年度通期予想

### 本資料取り扱い上の注意点

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したものであり、日本および海外の経済情勢や当社の関連する業界動向、為替変動等にかかわるリスクや不確定要因により実際の業績が記載の予想と大幅に異なる可能性があります。

2/18

(説明なし)

# 1-1 2022年度 連結業績



売上は過去最高となるも、材料などコストアップにより減益

(億円、%)

	2021年度		2022年度		前期比			
	4 Q実績	通期実績	4 Q実績	通期実績	4 Q実績		通期実績	
					増減	増減率	増減	増減率
売上高	444	1,644	478	過去最高 1,912	+34	+7.7	+267	+16.3
営業利益	29	107	36	92	+6	+21.4	△14	△13.6
営業利益率	6.7%	6.5%	7.5%	4.9%	+0.8P	-	△1.6P	-
経常利益	45	146	46	132	+1	+2.5	△14	△9.6
経常利益率	10.3%	8.9%	9.8%	6.9%	△0.5P	-	△2.0P	-
親会社株主に帰属する当期純利益	24	98	31	93	+6	+29.1	△5	△5.1
当期純利益率	5.4%	6.0%	6.5%	4.9%	+1.1P	-	△1.1P	-
平均為替レート (米ドル)	115.4円	112.1円	133.3円	134.9円	+17.9円	-	+22.8円	-

※2022年度第4四半期には、スチール材有償受給化の増加により、前期比51億円の売上減少が含まれています。利益への影響はありません。

3/18

第4四半期の業績は、自動車生産の回復に伴う販売物流の増加により、売上高は前期比7%増の478億円、営業利益は21%増の36億円となりました。通期の売上高は1,912億円、営業利益は92億円、経常利益は132億円、当期純利益は93億円となりました。

## 1-2 連結売上高 増減要因



円安、材料建値上昇、生産回復により売上高は過去最高



4/18

通期の売上高増減要因は、4Qからプレス鋼材の有償受給化による減収などがありましたが、円安基調の継続による為替のプラス影響、プレス鋼材価格などの上昇に伴う材料建値の影響、4Q以降、半導体不足の状況が緩和し、自動車生産が回復してきたことによる販売物量プラス、により1,912億円となりました。

# 1-3 連結営業利益 増減要因



原価改善に取り組むも、販売価格低下・コスト増により減益

単位: 億円



5/18

営業利益は、販売価格の影響や材料価格、エネルギー価格の上昇による経費の増加影響、労務費などコスト負担の増加が大きく 92 億円となりました。

## 1-4 連結事業別セグメント



### プレス・樹脂は増収も利益は前年並み、バルブは増収・減益

(億円、%)

	売上高				営業利益			
	2021年度 実績	2022年度 実績	前期比 増減	前期比 増減率	2021年度 実績	2022年度 実績	前期比 増減	前期比 増減率
<b>プレス・樹脂</b>	1,142	1,368	+225	+19.7	49	49	+0	+1.1
(プレス鋼材有償受給化影響)		※1 (△51)						
営業利益率					4.3%	3.6%	△0.7P	
<b>バルブ</b>	499	542	+42	+8.4	58	42	△15	△26.9
営業利益率					11.7%	7.9%	△3.8P	

※2022年度第4四半期には、プレス鋼材有償受給化の増加により、前期比51億円の売上減少が含まれています。利益への影響はありません。

6/18

・プレス・樹脂事業の売上高は、円安影響、材料建値、物量増加により 1,368 億円、営業利益は、販売物量増加の効果はありますが、3Q までのアメリカ事業体での経費・労務費等、コスト増加により前期並みの 49 億円となりました。

・バルブ事業の売上高は、円安影響が大きく、542 億円、営業利益は、材料価格等のコストアップを補うため、価格転嫁を推進しましたが、42 億円となりました。

## 1-5 連結地域別セグメント



日本・欧米は増収・減益、アジアは増収・増益

(億円、%)

	売上高				営業利益			
	2021年度 実績	2022年度 実績	前期比 増減	前期比 増減率	2021年度 実績	2022年度 実績	前期比 増減	前期比 増減率
<b>日本</b>	687	706	+18	+2.7	61	49	△11	△18.9
(プレス鋼材有償受給化影響)		※1 (△51)						
営業利益率					8.9%	7.1%	△1.8P	
<b>欧米</b>	612	781	+168	+27.5	13	△1	△15	赤字化
営業利益率					2.2%	△0.2%	△2.4P	
<b>アジア</b>	344	425	+80	+23.4	31	36	+5	+16.4
営業利益率					9.2%	8.7%	△0.5P	

※2022年度第4四半期には、プレス鋼材有償受給化の増加により、前期比51億円の売上減少が含まれています。利益への影響はありません。

7/18

日本の売上高は、3Qまでの材料建値アップによる増収影響、4Qからのプレス鋼材有償受給化による減収影響などにより、706億円となりました。営業利益は、材料・エネルギー価格などのコストアップにより、49億円となりました。

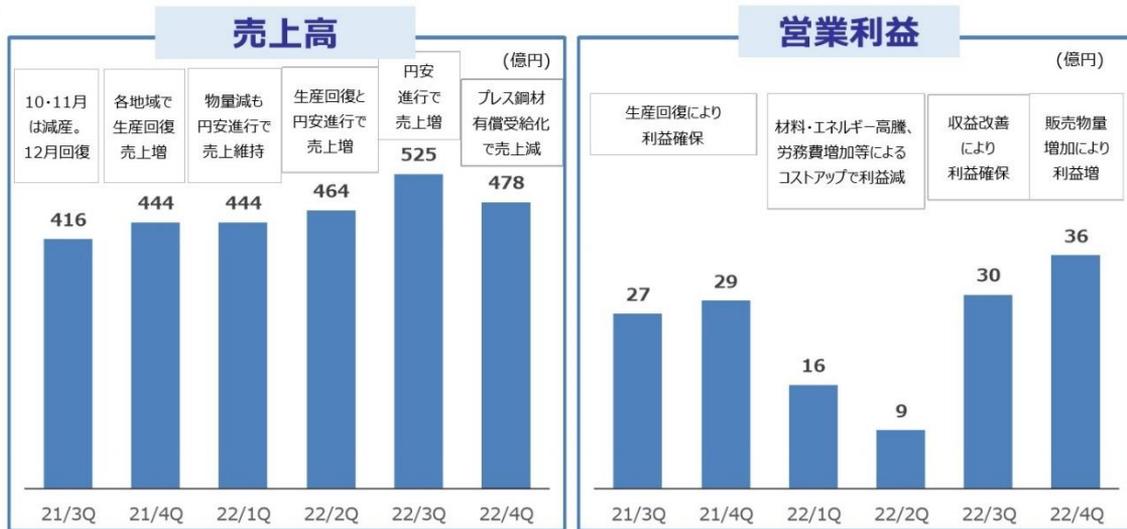
欧米の売上高は、円安による為替換算の影響もあり、781億円、営業利益は、2Qから3Qにかけての、アメリカ事業体での収益悪化を4Qでカバーし、通期では1億円の赤字にとどめることができました。

アジアの売上高は、販売物量の増加により、425億円、営業利益は36億円となりました。

# 1-6 四半期別 連結業績推移



3Qは収益改善により利益を確保、4Qは販売物量増加により利益増加



8/18

売上高と営業利益の四半期別推移です。4Qは販売物量が増加しましたが、プレス鋼材の有償受給化により売上は減少しました。利益面では、物量増加と収益改善により3Qを上回りました。

## 2-1 2023年度 連結業績予想



プレス鋼材の有償受給化により売上は減少するも、販売物量増加により営業利益は増益の見込み

(億円、%)

	2022年度		2023年度		前期比			
	2Q累計 実績	通期 実績	2Q累計 予想	通期 予想	2Q累計 増減	2Q累計 増減率	通期 増減	通期 増減率
売上高	909	1,912	910	※1 1,850	+0	0.1%	△62	△3.3%
営業利益	26	92	50	100	+23	92.2%	+7	7.6%
営業利益率	2.9%	4.9%	5.5%	5.4%	+2.6P	-	+0.5P	-
経常利益	55	132	65	130	+9	17.3%	△2	△1.6%
経常利益率	6.1%	6.9%	7.1%	7.0%	+1.0P	-	+0.1P	-
※2 当期純利益	41	93	45	90	+3	8.9%	△3	△3.2%
ROE	-	7.0%	-	6.4%	-	-	△0.6P	-
ROA(営業利益ベース)	-	3.7%	-	3.7%	-	-	-	-
一株当り純資産	-	2,309円	-	2,467円	-	-	+158円	6.8%
平均為替レート(米ドル)	129.8円	134.9円	130.0円	130.0円	0.2円	-	△4.9円	-

※1 2023年度はプレス鋼材有償受給化の増加により前期比 194億円の売上高の減少が含まれています。利益への影響はありません。

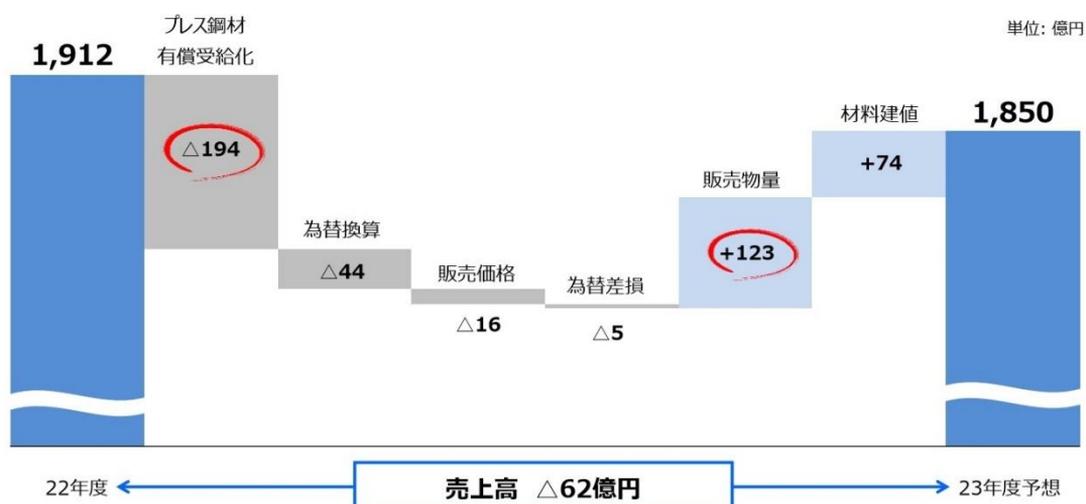
※2 当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益です。

10/18

通期の売上高は、1,850 億円を見込んでいます。22 年度 4Q からプレス鋼材の有償受給化により、200 億円程度の売上減少影響がありますが、販売物量は回復すると想定しています。営業利益は 100 億円、経常利益は 130 億円、当期純利益は 90 億円、と予想しています。

## 2-2 通期 連結売上高 増減要因

販売物量は増加するも、プレス鋼材の有償受給化により売上高は減少



通期の売上高は、販売物量は増加するものの、プレス鋼材の有償受給化や為替影響、販売価格の低下により、前期の1,912億円から62億円減収し、1,850億円を予想しています。

## 2-3 通期 連結営業利益 増減要因



販売の回復を想定、継続的な原価改善で増益を見込む

単位: 億円



12/18

通期の営業利益は前期より7億円増益の100億円を予想しています。生産回復が進むと想定されますので、改善を進め、着実に収益確保に取り組んでいきたいと思ひます。

## 2-4 通期 連結事業別セグメント



プレス・樹脂は見かけ上減収、バルブは減収減益を見込む

(億円、%)

	売上高				営業利益			
	2022年度 実績	2023年度 予想	前期比 増減	前期比 増減率	2022年度 実績	2023年度 予想	前期比 増減	前期比 増減率
<b>プレス・樹脂</b>	1,368	1,315	△53	△3.9	49	70	+20	+40.6
(プレス鋼材有償受給化影響) 営業利益率	※1 (△51)	(△245)	(△194)		3.6%	5.3%	+1.7P	
<b>バルブ</b>	542	530	△12	△2.2	42	30	△12	△29.6
営業利益率					7.9%	5.7%	△2.2P	

※1 2022年度4Qから、プレス鋼材有償受給化の増加による売上高の減少が含まれています。金額は上記の通りです。利益への影響はありません。

13/18

プレス・樹脂事業の売上高は、プレス鋼材の有償受給化の影響による減収を含み 1,315 億円、営業利益は 70 億円と予想しています。

バルブ事業の売上高は 530 億円、営業利益は 30 億円を予想しています。

## 2-5 通期 連結地域別セグメント



日本、アジアは減収減益、欧米は減収増益を見込む

(億円、%)

	売上高				営業利益			
	2022年度 実績	2023年度 予想	前期比 増減	前期比 増減率	2022年度 実績	2023年度 予想	前期比 増減	前期比 増減率
<b>日本</b>	706	685	△21	△3.0	49	40	△9	△19.8
(スレス鋼材有償受給化影響) 営業利益率	※1 (△51)	(△245)	(△194)		7.1%	5.8%	△1.3P	
<b>欧米</b>	781	747	△34	△4.4	△1	19	+20	黒字化
営業利益率					△0.2%	2.5%	+2.7P	
<b>アジア</b>	425	418	△7	△1.7	36	33	△3	△10.5
営業利益率					8.7%	7.9%	△0.8P	

※1 2022年度4Qから、スレス鋼材有償受給化の増加による売上高の減少が含まれています。金額は上記の通りです。利益への影響はありません。

14/18

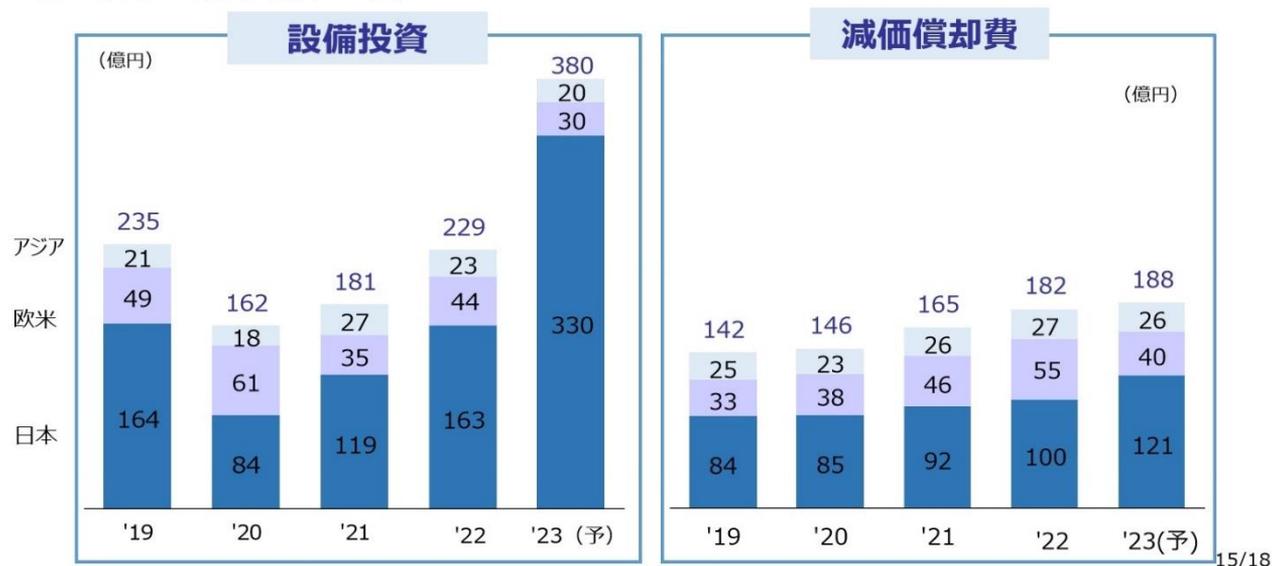
日本の売上高は、685 億円、営業利益は、40 億円、

欧米の売上高は、747 億円、営業利益は、19 億円、

アジアの売上高は、418 億円、営業利益は、33 億円と予想しています。

## 2-6 連結設備投資・減価償却費

将来の成長のための投資を実施



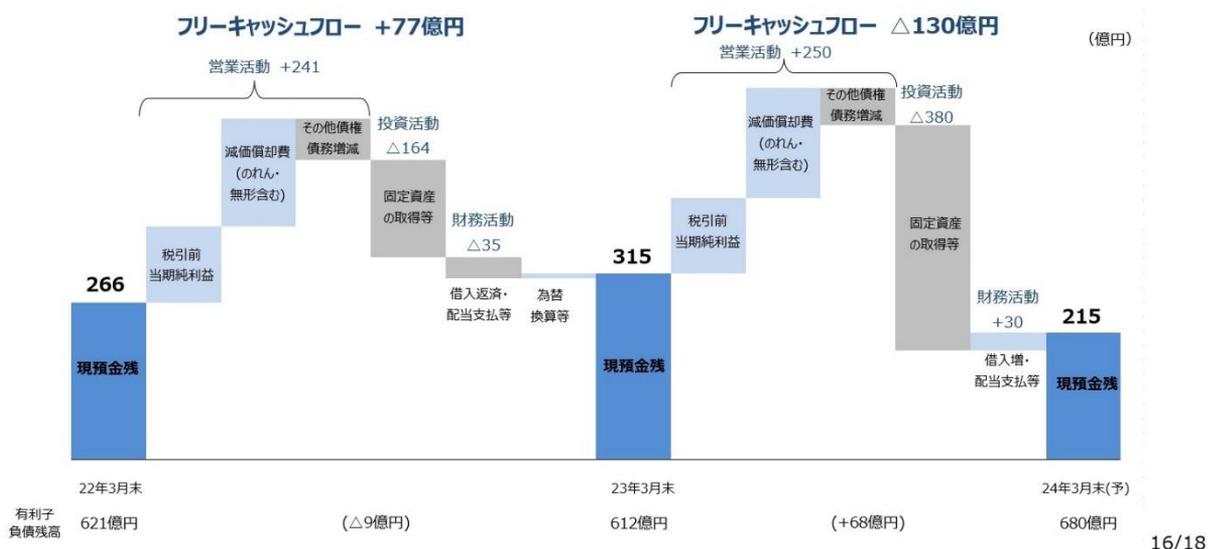
22年度の設備投資は、通常の新製品立ち上げに伴う生産準備の他、将来の成長のための投資として、大垣地区の新工場建設に加え、日本、アメリカ、中国での増産に向けたプレス溶接設備の導入などを進めました。

22年度実績は、設備投資は229億円、減価償却費は前期比17億円増加の182億円となりました。23年度は新工場建設を含め、380億円の投資を予定しています。お客様からの受注増加に応じて、生産能力増強を行うとともに、より効率的な生産体制の構築に向けた投資も行い、競争力強化を進めていきます。

## 2-7 連結キャッシュフロー



グループ内キャッシュマネジメント強化で、効率的な資金運用を実施



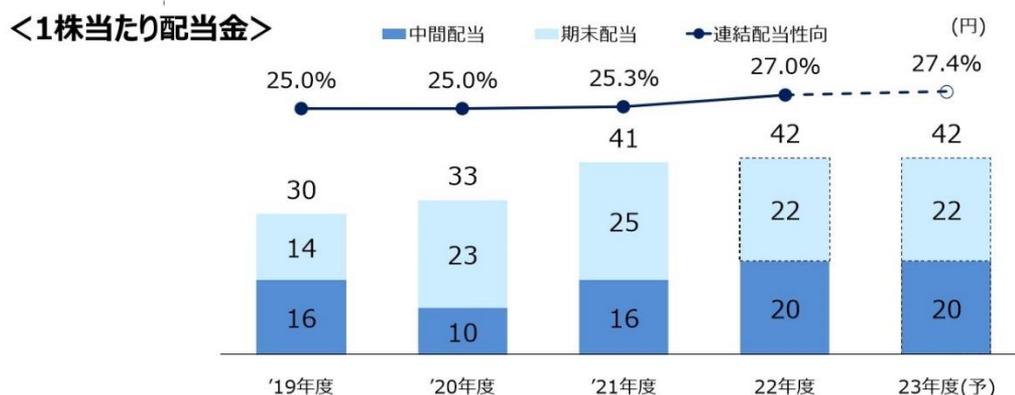
16/18

キャッシュフローについては、グループ内キャッシュマネジメントを強化し、効率的な資金運用を推進しています。22年度は工場投資支払準備のため、一時的にキャッシュが増加しました。23年度は工場建設などの支払いのため、現預金残高は100億円減少します。また、一部を借入で賄うため、有利子負債は68億円増加する見込みです。

## 2-8 株主還元



安定的な配当に加え、自己株取得による株主還元を実施



- ＜自己株取得＞
- ・目的：株主還元および資本効率の向上、機動的な資本政策遂行
  - ・取得日・株数・金額：2023年4月28日、1,284百万円、109万株
  - ・総株主還元性向：22年度37.9%、23年度予想41.8%

17/18

22年度の配当は、期初に示しました配当予想の通り、期末配当 22 円、年間配当 42 円です。23年度の配当金につきましては、年間 42 円を予定しています。

また、4月27日の決算発表と併せて開示した自己株取得ですが、4月28日に完了しました。取得した株式の総数は109万株、総額は12億円となりました。株主還元および資本効率の向上、機動的な資本政策遂行を目的として実施しています。

以上